(一) 第十五號 (水曜日) 京城新聞 明治四十一年七月廿二日 (明治四十一年七月四日第三種郵便物認可) (日刊)

京城新聞

●間島近況

▲通信機關 は昨年十月一日龍井村(六道溝)に我郵便局を新設し郵便、電報取扱ひを開始したるが其後同年十二月清國にて渾春を經、局子街に至る電信線を架設し今年三月より郵便事務を開始したり

▲我憲兵 は現今數十名を駐屯せしめ間島に於ける日韓人の保護、取締に從事せしめ居れるが駐屯地は現今龍井村を始とし頭道溝、銅佛寺、局子街、下泉坪、跡洞、伏沙坪に分遣所を設置し尚近く分遣所數ヶ所を增置する方針なり

▲氣候 は昨年來の經驗によれば局子街にて酷寒の候零點以下三十一度を上下し日中も風なく積雪も深からず夏は京城程酷熱に非ず又た大陸の氣候とて夜間は極めて冷涼なりと要之間島の氣候は甚だ良好と云ひ難きも亦決して不良ならざるが如し統監府派出所開設以來日本官憲に對する

▲韓民の感情 は始め吾が派出所員赴任の當時は果して永久的に斯る保護官吏を駐在せしめらるゝや否やに就て一般韓人間に疑惧心を懷きたる樣子なりしも近時派出所廳舍新築に着手したる爲め彼等も大に安心し事の大小となく派出所の裁斷を待つて決する樣なれり初め著しく彼等の疑惑を生じたるは曾て明治三十六年韓人李範允なる者間島官吏として派遣せられ韓人も大に同官を信賴し清人の橫暴壓迫を制したるが日露戰爭の當時李は露領へ逃走して行衞不明となり其後韓人は以前よりも一層清人に酷められたるを以て今度の派出所も又李と同じく暫時にして引上げるには非ざるかと懸念したるものなり派出所廳舍は來る十月落成の豫定經費は四萬餘圓なり

▲間島の農業 を調査したる八田農學士の談によれば同地の農業は頗る有望なりと現在は最も不完全なる耕作法によりて相當の收穫を得居れり尚現今の人口の五倍に達しても土地に不足を感ずるが如き事なかる可し次に間島居住韓人の多數は

▲一進會員 にして我官憲に對しても好意を表し居れり然るに過般同會員に非ざる韓人等數十名連署して清國又は露國に歸化せんとて北京及び聖都に赴き運動したるものありたれども右は全く一進會員との感情衝突の結果數名の無賴漢にか唆され斯る暴擧に出でたるものにして何等深き理由なく使嗾者數名は既に何れへか逃走し現在間島內に居住し居らずと

青葉の雫

三木 青霞

灰色や白色の斑の浮雲が棚いている、ドッド降るでもなければ霽れるでもない只時折疎雨がザーザーときて翠深い南山の木の葉に水玉を撒く……底の砂が白い滑らかな溪水が、滴々落る楚の露……碧葉の雫に潤ふて一入涼しく流れてをる庭前を見れば咲き綻びているつくばね草の淡紫の花や紅褐色の金蓮花の色が解けて時雨に流る眺め美しい日もあるげに定り難いのは洛陽けふこの頃の空模樣である

吾れは由あつて過ぐる一日から浪人となつたいでや之からは草根を枕に星や月に親しみ韓半島は名に聞く山間僻地を跋渉し古い寺由緒ある祉を歷遊せばやと心を寂しい獨り旅路に趁らせていたが某氏の情宜む勸めに絆されて今は南山の麓から徑も遠からぬ花畑の片邊の草の院に仕官の日を待つ處士と言ふ身分になつた

然れど風雲の逝くねに人の身は一夜の裡に什麼變るやら、萬事が夢の世の中幻の浮橋を渉つている心細さ

噫々思ひ底れば去年の此月……文月は半過ぎ霞村、明星、漁翠、芳靜、風葉の面々と一日の清遊を

播州琴の浦邊の入江で盧分舟に乗じ若竹の棹さして濱馴松の枝影で沖合遙に巽帆片帆が……青い蠻を敷いた樣な穩な浪の上を彼方此方に走つている風致のいとも幽趣なるのを見憧れつゝ……磯風に暑を忘れ釣を垂れたときの友の語り草……日も次第〳〵に地平線に傾く西の空にはうす紫の斷れ雲が一樣に淡らんで行く夕映の暮色……ゴーンと鳴る本德寺の入相の鐘しんめりと何物か靜まるやうに哀に松風に響く

望めば武庫の岬は早く夕靄に隱れた漸く滴る月は今しも生駒の峰から昇つた夕潮は月波を漾はしている……實に美しい吾れ等は白く沈める入江の小波を掃き漕ぎ大物の堤に着いた……土堤の柳の蔭に舍弟の蠻城が向ひに來てをる……吁々今は夢となつた自分は斯ふ考へると氣が沈んで種々の冥想に耽る。

●韓國の大豆の將來

昨年九月當地穀物市場新大豆始めて出來直は九圓二十錢馬山物は下等品にして新年一月に入りては最高七圓八十三錢最低七圓に至り二月三月は最高七圓七十五錢より最低六圓六十錢に及び去月は五圓八十五錢と云ふ新安直を生せり此の如く逐日低落に低落を重ねたる爲め當業者は一般に損失を招きたるが是れ悉く清國大豆の本邦內地に輸出せられたる結果にして將來も亦た韓國大豆は到底清國產の打擊を受けざる可らず殊に往時は清國の大豆輸出港たる牛莊營口港は結氷により其輸出を杜絕したりと云へども今や其欠陷は滿洲鐵道大連灣に補はれて何等の支障を見ず隨時我國に輸出せらるゝ爲め絕へて高値を現はすに至らざるなり然かも降後の趨勢は益々韓國大豆をして悲境に陷らしむべく此の半島の產出商に數百倍する北滿洲大豆は東淸鐵道によりて浦鹽に出で夫れより海路我が敦賀に向け輸入せらるべきは必然の結果にして露西亞の如きは目下鋭意其點に付劃策し居れりと云ふ去れば本年の當地新大豆寄付直段は昨年に比し遙かは下位に有るべく猶は其盛出期に至りても能く往時の盛況は持續し難かるべしと

小說 新不如歸 (五十九)

篠原嶺葉著

百合子は石に化した女神の如く、身動きもせず、足柄に答ふべき返辭を求むるのであつたが、西脇家の家名を救ふて、我身も戀焦れた良人と家庭を作つて行かうと思ふには、足柄が辭に從ふて肉体を汚すより外は無く又節操を守つて飽まで足柄の希望を謝絶すれば、勢西脇家の家名は勿論、事と品に依つては、自分を最愛の良人と離別するの悲境に沈まねばならず何れにしても身を斬らるゝよりも苦しい場合に望むだのであるから、小さき胸一つを持餘して、二つの中何れを撰ぶべきかに躊躇するのであつたが、奈何考へて見ても、鬼の如く蛇の如き足柄に肉体を汚さるゝ事は假令西脇家の家名を潰すとも、忍び得られんので、斷乎として足柄の希望を謝絶爲やうと思ふ時、足柄は先刻より百合子の打沈む姿を見恍惚として眺めて居つたが、其の衿元の邊から橫顔の美くしさを見て最早戀情を制する事が能なくて、物をも言はず、行儀正しく膝の上に乗せた百合子の手を取るより早くグッと引寄せた、百合子は意外の亂暴に聲を揚げやうかと思つたが、召使などにかゝる猥がましい振舞を見らるゝも恥かしく、有らん力を滿身に籠めて、捉へられた手を振り放さんと藻掻くのであつた。

すると此時一間の襖をスラリと排けて、

「百合子さん只今歸りました」

と、顔を出したは姑の奈加子であつたが、此の狀態を見るより早く、直ぐ襖を閉切つて去つた。

奈加子の顔を見た百合子は、怖しさと、恥かしさと、悲しさとに襲はれて、ワッとばかり泣き俯した。

足柄も有繫に面目なげな樣子で、其まゝ物をも云はず、泣き居る百合子を顧んともせず室を出たが、次の室の入口に立つて居た奈加子と顔を見合せ、互に冷な笑を洩らして、匆々歸つて行つた。

足柄が歸つて行くと、間もなく奈加子は再び百合子の室に顔を出した、

「百合さん、お話爲たい事があるから、些と私の部屋まで來て下さい。」

と云ひ棄てゝ、閉めた襖の音さへ荒々しく去つた。

平常より我身に辛き姑に、かゝる淫猥がましい擧動を見られしからには、如何なる難題を言ひかけらるゝも計られず、縱令身潔白を言ひ解けばとて、それを信として許す如き事はあるまじき事と思へば寧そ一思ひに死ぬるものなら、死んで此の苦艱を免れたい程に悶えつゝ、堰來る涙を僅に袖に拂ひ、居所に曳かるゝ羊のそれのやう、進まぬながら姑の室へ行つて、そして怖る〳〵敷居の側に坐つて、

「お歸りなさいまし、嘸お寒かつたでございませう、お留守に足柄さんがお越になりまして……。」

と、これまで云つたが、モウ悲しさに胸が閉ぢられ、涙に咽んで後は云ひ得られぬ。

奈加子は何か云はうと云ひたげに、其の容子を尻目にかけ、

「おやッ、お前さん何が悲しうて那樣に物も云へない程泣きなさる、留守を預つて居りながら此の夜更に、あれ程の樂みをするお前さんにも似合ないぢやありませんか、良人や姑の留守を幸ひに、嫁に來た早々から他の男と淫らな事を爲る程の人が、何が悲しうて泣くのです」

と、案に違はず毒々しい調子で責め出した。

京城新聞

河川の修理

治水工事の完否は其國の盛衰を卜するに足る、殊に農を以て立本となす國に於ては治水の業は何事を措てもなさざる可らざる先決の問題なり、ロード、クローマーが埃及の保護政治に着手するや、其烱眼はナイルの河流に向て注がれたり、埃及の盛衰はナイル河に依りて支配せらる、之が修理をなして適當に氾濫せしむるは埃及を富す唯一の策なりとし、幾多の技師を傭聘して之に大なる權力を附與して專ら河流の修理に任せしめたり、之が爲に暴激なる氾濫を防ぎ年々適當なる河水の氾濫により適度の肥沼を耕作地に得るに至り、放任せる當時の如く大氾濫の爲に屢々凶作となる憂を除きたり、ナイル修理の爲に埃及の農事は著しく發達したり、クローマー卿の着眼敢て奇拔と稱するに足らざるも、唯政客操縱の爲に浮身を窶し他を顧る能はざる凡庸政治家に較ぶれば其見識の一段高きを感せずんばあらず、

眸を放て韓國に於ける治水の現況を見よ、河川は荒壞して其形を失はんとす、六大江を除くの外は旱天一週を續れば道路と河川の區別を失ひ、一日大雨降れば河水氾濫して道路に濫るなり、斯る狀態なるを以て河川に橋梁なく降雨増水すれば往來は更に遮絶す、地方旅行者は之が爲に彼岸を望で淹留することは珍しからず、夫れ既に治水なるものなし農事に影響する所の大なる推して知るべきのみ、故に韓國農業の豐凶は降雨の如何によりて定まるなり、適當の降雨あれば可なれども少しく降雨少なければ治水の備らざる爲に凶作となり、降雨多量に過れば氾濫して農作を侵害す、韓國に豐年の少きは治水の不備なるが爲なり、河川の修理は韓國開發の先決問題なり、伊藤統監にして積極的經營、生產的方面に於ける智識ありて、之に着眼すれば河川の修理は既に着手せられたるやも知る可らず、然るに早くも政爭渦中に投じ渠等の操縱に寧日なく爲に此緊要なる問題は看過せられたり、

余輩は山陽線を通過する毎に、備前備中邊に於ける治水の整備せるを見て熊澤蕃山の治水を主とせる農政が如何に此地方を益することの多きを偲び、蕃山の遺績は今尚は生きつゝ民を潤はするを觀て欣慕の情に禁へず、經國の大業は政治論に非ずして眞實なる殖產的經營にありとの感念を抱かしむ韓國の經營亦之に外ならず、河州の修理は經營の先驅なり、政權の爭奪にのみ憧がるゝ韓內閣員及び元老等も大に顧慮する所なかる可らず、今や幸に農政に意を注がるゝ曾禰副統監あり、必ずや韓人等の政爭渦中に煩はさることなく、超然として實利的方面に着眼せられ居るや明けし、余輩は第一着手として河川の修理を副統監に待望するものなり

東京電報

▲常宮殿下御懷姙　竹田宮妃常宮殿下御懷姙遊ばさる昨日兩殿下御同乘にて兩陛下に御對顏遊ばされ御內奏ありたり（廿一日發電）

▲岡田氏の兼任　岡田良平氏は愈々文部次官に任せられ倘京都大學總長を兼任することゝなれり（二十一日發）

雜報

●伊藤統監の進退　伊藤統監は何時に似合はず下關にれいて各新聞記者に快く面會し諄々として多くを語りたるも唯一の語るを欲せざりしものあり即ち統監辭職問題なり統監は予の進退は陛下の思召に從ふものなりとて辭職說を打消すにもあらず肯定するにもあらず極めて曖昧なる答をなしたるも統監府の重要なる位置にある某氏は語て曰く統監は去四月韓國に歸任して以來韓帝陰謀の根源たりし宮中の肅清に次で宮中の財政を整理し又地方制度の紊亂の根源たりし地方官制を改善し一方財政問題については曾禰副統監をして日本政府との間に協定せしめ暴徒討滅の手段も遺憾なく實行せられ宮廷も心を安んじて吾に信賴し元老も其疑を解きて吾を信用するに至り韓國の事大手腕を要すべきものは凡て遺憾なく成功したるを以て今後の事は一切を擧げて曾禰副統監に托し統監自身は內地に在りて專ら韓國皇太子殿下の御敎育に盡瘁し時に臨んで韓國宮廷を訪問する位に止むべしと、記者は更に然らば統監は今後內地に在りて靜に休養せらるゝや又頭來統監は如何なる讀書研究をなし居らるゝやと問ひしに某氏は微笑して統監は統監たるべき勅命を受くるまでは韓國に關する書籍を繙きたるも統監として渡韓したる以來は常に淸國及び亞米利加に關する書籍を繙き居れりと語れり以て伊藤統監今後の動靜を察するに足るべきか

●統監大磯着　伊藤統監一行は二十日午後五時十七分岐阜着二十一日午後大磯に着せられたり

●揮毫御覽　曾禰副統監は一昨日午後三時二十分目下來京中の書家佐久間鐵園氏を伴ひ昌德宮に參內し秘苑宙合樓に於て同氏の揮毫を皇帝の御覽に供し同六時二十分退去皇帝には同五十分還御あらせられたりと

●大臣會議　昨日午前九時より統監官邸に各大臣參集し定例大臣會議を開けり

●參與官會議　昨日午前九時より定例參與官會議を統監官邸に開けり

●參政課の新設　從來參政に關する事務は度支部司稅局稅務課に於て取扱ひ來りしが今回紅參專賣法を發布せられたる結果度支部分課規定を改正して司稅局に參政課を新設し書記官一名を置きて課長とし專任技師一名主事十名技手五名を新任し事務所は從來の度支部稅務課の出張所たる海城の廳舍を擴張して人參製造所を設け紅參の製造販賣其の他人參專賣局に人參稅に關する一切の事務を處理せしむる筈なりと云ふ而して參政に關する本年度の追加豫算は左の如し

歲入　經常費　二十八萬六千七十五圓
歲出　經常費　十八萬二千九百六十六圓
　　　臨時費　四萬三千三百圓
計　六十二萬六千二百六十六圓

右歲入の中に就きては紅參販賣代金歲出經常費中にては人參賠償金重なるものにして歲出臨時費は紅參製造所及び事務所の建築修理に充てらるゝなり因みに參政課長には內海書記官其の任に當るべしと

●警視廳官制改正　警視廳官制の改正は愈々一昨日裁可を經たるを以て明日の官報を以て發表せらるゝ筈なるが其の內容は既報の如く其の管轄區域の京畿道全部なりしを縮少して漢城府に限り同時に定員中警視四名警部十五名及び多數巡査の減員を行はれたり

●地方官制の改正　地方官制の改正は別項警視廳官制改正と共に一昨日裁可を經たり其の內容は既報の如くにして道に內部警察の兩部を置き內務部長は道書記官此れに當り警察部長は道警視を置きて此れを命じ尚道勤務の警部一名及び巡査三名を新置す又警視廳官制改正に伴ふ京畿道に警察權を與へ同時に警視廳より減員せし職員を道の定員に加へられたるは勿論なり

●郡守の選任と京城兩班　今回地方官制を改正せられたる結果郡守の推選は觀察使此れを取扱ひ而かも其の候補者は觀察府管轄內に住居するものたるを要する事となりたるを以て從來京城に住居して政變ある毎に郡守の官位を買得しつゝありし兩班輩は京城は漢城府の管轄にして道の管轄に獨立せるため官制上郡守となるの資格を失ひたるを以て大恐慌を來し彼等の中には既に各地方に移住を企つる者あり中には觀察使と內約を遂げて其の觀察使の所管區內に移住するものありと云ふ而して如斯は官制の精神たる地方事情に精通し且地方人民に德望ある者を郡守に選任するの趣旨に副はざるも由來地方には敎育ある人物に乏しく韓國に於て京城兩班が地方に移住するは地方發達の上に利する所大なるべしと說く者あり

●警察配置の改正　韓國地方警察配置の改正に關しては曩に詳細なる報告をなしたるが右の改正は一昨日既に裁可を經たるやにて此れと共に全國の四十五警察分署中龍岩浦分署を除く外何れも警察署となしたれば全國の警察署は從來の二十一箇所と共に六十五箇所となれり

●暴徒被害救恤金の分配　既報韓皇より內外國人の暴徒被害者へ御下賜ありし救恤金十萬圓は內部に於て內國人に關しては道よりの報告に基き一括して觀察使に配付し觀察使は此れを府尹郡守に分ち警察官立會の上被救恤者に交付して領收證を徵する事とし日本人其の他の外國人に關しては統監府の回答により一括して同府に送付し其の交付を委囑する筈にて全國の被害者を取纏むるは尙時日を要するを以て取敢へず調査濟の分より配付する事とし其の被救恤者は家を燒かれたるものに在りては本人殺されたるものに在りては其の遺族にして遺族の順は一、寡婦二、遺子、家政繼承者を先にす）三、父母四、祖父母五、兄弟姉妹なりと云ふ

●中島氏惜別の辭　過る日十八夜花月樓に於て開催せられたる中島司馬之介氏大每通信辭退披露會は空前の盛會にて氏が十四年間の勤務は官民各方面の好誼を收めたるを證して餘りありたり當夜出席の人々には宋內相、岡、木內兩次官熊谷民長中村會頭各銀行家議員實業家及新聞記者等七十餘名なりし左に席上諸氏が中島氏に對して述べられたる惜別の辭を錄す

宋內部大臣は一同を代表して述べて曰く
中島君が大阪每日の爲に十四年間御勉強相成今御辭職なさるは私の惜しむところであります併し君は表面隱居なされても實は隱居するに非ずして大に活動して爲すところあらんとせらるゝなるべし私は斯く信ずるなり

木內農商工部次官
予は中島君の御退任を惜しみます余は君の如き韓國通が此儘此地に止まつて事業を起され日韓兩國の爲に盡されんことを希望致します

熊谷民長
中島君は單に記者としてのみならず居留地の有志家として過去十數年間盡力せられ社會に向つて多大の貢献を爲されたるは余の認むるところなり要するに君はドノ方面にも模範となすに足るの人物なり

頭本元貞氏
予は中島氏の如き有力なる記者が我記者團籍を脫せらるゝを惜しむや切なり而れども君の活動は之からにて予は謹みて君の將來の成功を祈るものなり

古城管堂氏
京城の地由來法律雨下し言論の自由廣からず新聞また時々に我々を壓せんとすることあり居留民としての生息は實に危險を感ずる次第なり此時に當て中島君記者籍を脫し我黨に入る我々の心强さ幾許ぞ之より後我々は君を先鋒として大に進まんとす

曾我勉氏
中島氏單に記者として成功したるのみならず同時に資產を作り御家族をも增されたり君の今回の辭任は眞に成功辭任なり

戸叶民堂氏
中島君の特色は清濁併呑人格の大なるにあり予は當國に來りて始めより君の指導を受け居るものなり君予に告ぐるに奮鬪の必要を以てす予は君の敎を奉じて今に奮鬪を繼續し居るなり

山口太兵衛氏
ドナタのれ言葉にか中島君が今度新聞記者を止めて平民になられると云ふ事がありましたが元來君は昔より平民なので我々の中間の人であります過去十四年間の君の辛勞は知る人ぞ知るでなまやさしい事では無いのであります

今井忠雄氏
世に智識の報酬の割合に少なきは予の憾みとするところなり中島君に對する每日社の待遇の如きも之を證して餘りあり併し中島氏が過去十數年間は只だ本社の爲のみならず國家社會の爲に盡されたるなるを以て待遇の如何などは君の念頭に無く一意本務を盡されたるが今日の成功を見たる所以なり

山道亞川氏
予は明治十年以後出生の青年記者を代表して今夕の主人公に一言を呈す曰はく今夕の主人公は實に世に稀れなる圓滿辭職を遂げられたるものなり只だ氣に掛るは何が爲に彼の美麗なる頰鬚を落されたるかを之は是非共理由を伺度ものなり

峯岸本社長
大阪每日の今日の大を成したるは他に種々の理由あるべきも余の見にては同社の諸君が始めより良く有機的に機能を盡されたるに因るべし中島君が十數年間此地に於ける有機的努力は慥かに每日をして今日あらしめたる一大要素なりと信ず

●新義州狀況　地形上龍岩浦より新義州及び義州、朔州、昌城、碧潼を經て楚山に至る間は何れも北は鴨綠江岸に沿ひ近きは二三十里遠きも一百里に過ぎず南は岳陵起伏し平坦なる廣野少なし且つ地質は粗惡にして磽确殊に義州碧潼郡は最も岩石多し鴨綠江岸は地皮風波のため掃洒せられ巖石悉く露出し突兀として峙立せり地味は一般に肥沃ならず而して草木の繁茂せる處は義州郡龍岩浦より昌城郡附近に至る間を以て多しとす水質は朔州以西は概して不良なるも以東は一般に淸水多く且つ水質良好なり道路は概して起伏屈曲平坦ならず又昌城楚山間は稍や嶮峻なり次に交通の要具としては馬匹及び轎、橇等あり河川には支那船及び曳船あるのみ牛馬一頭一里の貸錢三十錢人夫一人一里十五錢轎夫一人一里二十錢橇台一里四十錢船賃は不定なり次に又敎育機關としては日語學校中日本人を傭聘し居るは龍岩浦昌城の二校とす他は何れも韓人なり日語の成績は稍や良好なり其の他一般韓人は寺小屋的の私塾に通ひ居れり學科は重もに漢籍類とし殊に本年六月擧行せし聯合運動會後は何れも專ら體育に力を注ぎつゝあるものゝ如し金鑛としては義州郡廣坪面板幕洞にあり世評に依れば品質極めて良好なりと尙朔州郡內東面內に金鑛一ヶ所あり又溫泉は朔州郡上南面溫順にあり溫度强く且つ湧出量も亦多量なり特功は僂麻窒斯其の他一般の婦人病によろしといふ物產としては龍川郡に食鹽、鯡、米、大豆、義州郡に大豆、米、稗、黍、朔州郡に大豆、昌城郡に大豆、稗、唐黍、碧潼郡に粟、麻、麻布、唐黍、楚山郡に米、粟、唐黍、蜂蜜等を產す、又養蠶は專ら義州郡加山面附近に於て盛んに行はれつゝあり

●清國人の作蠶飼育　鴨綠江岸淸國領の各地は盛んに柞蠶を飼育し重要なる輸出物となれるに對岸たる義州方面には一體に柞樹の繁茂せるに拘らず從來此れが飼育をなすもの無かりしが今春淸國人は義州郡水鎮面に二ヶ所加山面に七箇所の飼育場を設け試みたるに其の成績極めて良好なりしを以て本月初より十餘名の淸國人水鎮面に來り第二期の飼育に着手せりと同地よりの通信に見ゆ

●憲兵補助員募集狀況　六月二十一日より憲兵補助員募集着手後の情況を調査するに全募集地即ち二百十三ヶ所の憲兵所在地中七月二十日迄に其景況報告に接したる分都合百七十二ヶ所其應募人員通計五千九百六十九人內既に採用したるもの二千百五人にして此募集完結の個所總計百十四ヶ所なり如斯景況にて豫定人員を充して優に餘りあり又募集完結のヶ所に在りて既に敎育を開始し搜索護衛等實地勤務に服せしめ相當の成蹟を見るに好況なりと云ふ

●京仁間滊車不通　降雨の爲富平永登浦間の鐵道に故障を生じ本紙締切までは不通なりし

●京義線も不通　一昨日來の降雨にて出水したる爲め京義線金城の假橋流失し一山驛より以西線路五六箇所の大破損を生じ全線不通となり又京仁線も素砂驛より仁川迄の間線路破損し不通となれり

●京釜線無事　京釜線は鐵道運輸部の報によれば幸に無事なるものゝ如し併し尙一降りあれば何とも計られずと云ふ

●京城民會開會　來る三十日頃京城居留民會を開會し右の事項に付討議する筈なりと云ふ
一、四十年度決算報告の件
一、軍用地借用の件
一、外協議事項數件

●中島氏招待會　京仁新聞記者團は今回大阪每日特派員を辭し記者籍を脫せられたる中島司馬之助氏を招待し明二十三日午後七時より淸華亭に於て慰勞の宴を催す由なり

●大庭氏送別會　大庭貫一氏は今回平壤民長に撰擧せられ明二十三日赴任せらるゝに就て菊地、熊谷、戸叶の三氏發起人となり本日午後六時日本人倶樂部に於て送別の宴を催す由なり

●漢城勞働組合の改稱　曩に漢城勞働組合を認可せられたるが今回總會の決議に依り爾今活民勞働組合と改稱することゝせり

●警察部長及署長任命　別項官制の發布に次ぎ警視の任命ある筈にて同時に各警察署長の任命も發表せらるべし但し道の警察部長は當分は專任となさず警察署長たる警視を以て此れに充てらるゝ筈なりと云ふ

●宮中の女敎師　皇后の贊講にありし光岡超重懸右夫人は曩きに其職を免ぜられしかば二十一日より兒玉伯爵夫人贊學の名にて小宮夫人を補佐することゝなり黑田夫人と同一の待遇を受け皇后の敎育に從事することゝなれりと因みに同贊講の選定は統監之をなせりと

公人私人

▲田村實（三井物產會社員）一昨日平壤より山本旅館
▲秀島浩一（辯護士）一昨日浦尾旅館
▲山本廣（平壤區裁判所判事）一昨日赴任
▲山本平藏（原州區裁判所判事）同上

●近事片々

▲曾禰副統監に對する韓人一般の意向は未だ定らず將さに觀察最中にありとは異也
▲伊公辭任の說愈々事實の傾向ある爲に曾禰子に對する注意一層に現はれ來れりと
▲批評區々にして或者は伊公に優る手腕ありとし或者は無能也と揣摩百出
▲一般の意向は桂內閣の成立により曾禰子に尊敬を拂ふの傾向あり統治上甚だ妙也
▲曾禰子の雄斷は韓人一般も信ずる者の如し爲に其威信は却て伊公に優る所ありと
▲曾禰子にして人間妙訣在無言にありを實行して緊切の場合に斷を示せば威服せん
▲伊公は余りに懷柔の安賣をなし過ぎたり曾禰子此の機微を察せば效績を擧ぐ可し
▲雄辨は銀沈默は黃金とか曾禰子韓人に威重せらるゝ或は其沈默に有や知る可らず
▲注意すべきは渠等の政爭渦中に知らず投ずる事なり絕体に關係せず超然たるべし
▲政爭は韓人特種の病任意に渠等をして爭はしめよ我にして渦中に投せざれば可也
▲拓植會社の創立準備は着々進捗して本月中に副統監の手許に廻るべしと先づ結構
▲後藤男閣員となり曾禰子副統監として韓國にあり滿韓共通の經營に至極の便あり
▲加之桂內閣は對外政策の刷新を標榜す滿韓の經營に好影響を來すべき當然の事耳
▲豆滿江附近に起れる暴徒の中に哥索克兵の混同する說あり之れ果して事實なりや
▲露境近接の地此事なしとは斷定すべからず若しありとすれば由々敷大問題ならん
▲或は露化韓人が哥索克の服裝をなして外交的暴行をなすに非ざる乎注意を要す也
▲豆滿江附近は露の勢力今尙ほ强し露の官憲の難有味を知て李範允を知らざる韓人有
▲北韓開拓の急務は茲にあり物產の繁殖と共に國境の守備を併得するの利益ある也
▲露國トルストイ伯英佛新聞に自國の暴政を痛罵せる大論文を寄せたりとは面黑し
▲最後に此論文に依り自己を禁錮せらるゝは望む所也と威武に屈せざる意氣甚快也
▲主義に忠實なる翁の如きは近世稀なり露國は此翁あるが爲に却て世に重きを爲す
▲鶴原君は日銀總裁ぺケの爲に滿鐵總裁の空巢を覘ふと能く總裁のみを覘ふ男なり
▲福岡縣敎育會協議事項中女學生の立小便廢止及牛肉店出入を禁ずる項有とは珍妙
▲福岡縣の女學生は余程立小便や牛肉屋に出入すると見へる敎育會協議は立派な者

(明治四十一年七月四日第三種郵便物認可) 明治四十一年七月廿二日 京城新聞 (水曜日) 第十五號 (三)

雜報

●笹の一葉(二) みどり生

れ嫁入りの咄しをすると直ぐ皆さんが眞ッ赤な顔をして下俯むいて仕舞ふのも尤もですが併し私が爰に咄しをいたさうとしますのはツマリ夫れに就てなのです、申し上ぐる迄もなく女の一生の大事は此のお嫁入りで之れはヨク〳〵注意いたしませんと實際後からでは什麼にも斯うにも取り返へしのつかぬ事になつて仕舞ふのです、尚更ら昨今のやうに理想の夫とか又は自由行動とか申す言葉が流行する時代にれきましては什麼位危險なものか知りません……實は私の懺悔談も外ではありませんがソレなので、今になつて考へて見ますとヤハリ只今申しました昨今の女學生方の流行を其のまゝ行ひました揚句が一生心の傷となつて春の花も秋の月も更らに樂しく感じないやうになつて仕舞つたのです、

私の生れは上州前橋の在で代々農家ですが父といふが養子であつた上に性質が至つて穩和でありましたゆゑドウしても母に頭が上らずソレに母と申しますのが人並勝れて勝氣な八ケ間敷やの方でしたから萬が一家庭に事が起るとか何かゞありますと母が先き立になつて獨りで何も彼も捌いて仕舞ひ横合からでも父が少しでも口を出しますと一も二もなく頭ごなしに遣り込めて仕舞ふといふ女としては眞實に感服しない性質でしたから村内の誰れ彼れは私しの家庭を指して「嗚呼天下」と冷評して居りました、私は只の一人娘で兄弟といふものはないのですが八才の時から村の學校に上りましたが奇妙に學問が好きでソレに品行方正とかやらで毎時も試驗の時には先生から御褒美を頂戴しました、順で級を經て尋常小學校を卒業し高等に這入りましたが高等へ行つてからも不相變學問の成績が宜しいつも全級の首席を占めて居りました、尤も高等へ上つてからといふものは母の教育が非常に嚴重で餘所の子のやうに學校から歸ると毬突きやれ手玉やなどして遊ぶことば出來ず毎日母の前で先生から習つて來た本を復習しソレが濟むと父明日稽古する所を母から教へらるゝのですが、偶には父が餘所から歸つて來た時なぞは「宜い加減にして時々は遊びに出すが可いソゥ嚴重に子供を育てたら性質がイヂケて仕舞ふではないか」と申さるゝ事もありましたが什麼して穩かに父の言葉に從つて「ハイ」と返辭をするやうな母ではありませんから何と父が申しましたからとて聞き入るゝ所ではありません、併し私其當時は子供心にも「斯のやうに母が嚴重に教育して下さるのはツマリ自分を可愛いと思ふ人情からであるゆゑ決して苛酷な母と思つてはならぬ」と深く心に銘じて居りましたから別に女達のやうに遊びたいとか何所かへ行きたいとかの氣は一寸もありませんでした(ソレから私が高等四年になつて……丁度十六の年になりますと爰に私の一身上に取つて大事な事柄が持ち上つて來たのです(つゞく)

●男女兩性の奇人

晝は四十を越した男
夜は五里の道を通ふ女

世には不思議なる女もあるもの哉、山梨縣北都留郡島田村字上新田の豪農飯島茂一郎と云ふあり年も分別盛の四十左右、名といひ服裝といひさては平素の擧措といひ何處に一點疑の挾むなき歷然とした男一疋なるが此茂一郎こそ男裝の女子なれとは恰も落語にでもありさうな話ならずや、今を去ること十年前茂一郎三十歳位の頃渠が獨身生活を氣の毒に思ひて同郡上野原町字新田倉古家龜五郎の妹雪なるものを世話するものありしも茂一郎は一夜たりとも雪と一つ寢せざるも雪は一年餘りも忍耐し居りしが終に茂一郎が世に所謂男女なるものにて下男某と醜交あるを發見して即日離縁を請求せり、此分れ話と共に茂一郎が男裝の女性なること近村に高く噂さるゝに至り誰一人後妻を世話するものとて非らざりしも一年餘を經て又も同郡柳川村字鹽瀬より現時の妻を媒酌するものありたり

されど茂一郎は依然として妻と衾を同ふせず折柄隱宅新築の爲雇入れし大工某が紅顔の美少年なるに打込みて時計、衣類は勿論の事、帶よ羽織よと大工がいふがまゝに買與へて忌むべき交を續け遂に大工に一家を貸與へて夜となく晝となく通ひ居りしを親族の發見する處となり種々協議の末大工某を鄉里なる群馬縣前橋に追歸す事となりしを茂一郎は思ひの情にたへず遙々前橋に尋ね行きて連れ戻りしも更に親族の抗議に逢ひ又もや分れ話しとはなりたり然るに同村受持巡査駐在所へ赴任したる志村俊といふ男前も萬更ならぬ巡査ありしを何時とはなく茂一郎が惚れ込み莫大の金を餌に志村巡査を男妾同樣にして月に廿日以上は駐在所に泊りに行くといふ始末となり宵闇に忍び出でし茂一郎の姿が駐在所に消ゆしを見たる近所の子供等は垣根越に家の內を覗いてワアッと計り打騷ぐ程に噂は八方に廣まりしにぞ親族は一家の面目上且つは同家の財產保護上苦心慘憺の末同村より五里以上も距れる西原村駐在所へ志村を轉任せしむる事となりホット一吸吐きしも束の間、戀に盲目の茂一郎は五里の山道を遠しとせず隨々西原村に通ひに通へば必ず二週間餘りも滯在し只管志村が歡心を得る事に努め不動產を抵當として少なからざる金錢を注ぎ込み有頂天となり居るのみならず茂一郎が醜行に常に風波の絕間なく徒らに不德の噂と借財の嵩まるにぞ親族一同は斯くては社會に對する面目もなしと一同鳩首して善後策を講じ居れりと云ふ

●鑛業許可

七月十五日の鑛業許可は左の如し

石炭九一五、一八八坪、慶尙北道善山郡海平面山陽面 池田又一
砂金九六、七一二坪、平安南道順安郡東頭面 京城永樂町二丁目七四戶 高瀨宣治
平壤大和町十三番戶 小島德太郎
同 同十七番戶の三 笠原喜市
同 南門通り一丁目 佐藤芳次郎
同 新町十五番地
砂金一八七、九四〇坪、平安南道順安郡平川面公田面 平壤府南門通外 波江野由太郎
京城本町四丁目宇野方 江口林次郎

●商務局員宴會解散

東亞開進教育會所屬商務局員四十餘名は去る十九日中署下漢洞李鉦鉉方に施て酒宴を張り多數の官妓を聘して豪興を極めたるが其際出席者中夫の負褓商の笠を戴き棍棒を携ふるもの其行動教育會の趣旨に反し且つ公安を害するものあるを以て所轄警察署は之を解散し携へたる笠及び棍棒は總て押收せりと云ふ

●豪雨

再昨日午後より天候は漸次陰鬱に向ひ小粒の雨を降らしたるも間もなく歇み一昨朝に至りては曇天ながらも左程のこともなく只だニャ〳〵として實に氣持惡しき天候なりしが午後よりは忽ち天候一變して大粒の雨を降らすや否や豪雨となり之に東南の風さへ添ひたれば各所の溝渠は濁水滔々として流れ昨日に至りても歇まず降り續きたるにぞ各所よりの濁流は漢城の中央を貫流する川に落ち合ひたれば忽ち汎濫し河橋附近の低地は浸水せし所も少からず所々土壁及び濁突の崩壞せし個所又少からずと云ふ居留地方面に於ても土壁道路等破損甚だ多く就中統監官邸前の道路中水道鐵管を埋沒せし所など數間陷沒して危險を極め居れり駐剳衛戍病院の土壁五間計り將さに崩壞せんとしつゝあり此外の損害は最も多數なりしが如し

●流筏夫救はる

統監府營林廠高山鎮出張所流筏夫熊本縣球磨郡球磨村字馬巡千四百十四番地松村仁平は去六日午前六時四十分鴨綠江流筏中平安北道渭原郡下面里邑にて仁平が筏は巖石に衝き當りて分離したれば之を取纏めんとしたる際流下し來れる木材のために身体を押壓せられ將さに溺死せんとしたるを折柄沿岸警戒の爲め派遣せられたる渭原分遣所憲兵は此の体を認め直ちに之を救助し高山鎮出張所主任野原藤次郎氏に引渡したりと

●石垣崩落して人を壓す

一昨日來の豪雨の爲め所々土壁石垣等崩壞少からざるが福井市足羽下町平民水野嘉太郎(三)は旭町一丁目歌舞伎座の道具方を勤め居るを以て同座に居住し居れるが昨日午前四時四十分頃熟睡しつゝある際夜來の豪雨にて隣りの耶蘇教會の經營に係る攻玉小學校の石垣崩壞し嘉太郎か寢ね居る壁を破りたれば何かは以て堪るべき嘉太郎は其傍土石の爲めに半身を壓迫せられ起きん〳〵と藻掻けど身動きさへ出來ざる始末に大に悶へ居る中基巡査及び生田李の兩巡査驅付け來り同所の大數市太郎岡延三郎の兩人と協力して土石を取除け漸く救ひ出したるが嘉太郎は幸ひに何等の負傷もなかりしと

●日傭取の大權幕

一昨日の午後八時頃三十六七の一人の男長谷川町飲食店一力亭事川村フサ方に入り來り酒肴を注文したれば同亭には此大雨の夜に左りとは奇特なれ客と下に置かず歡待し肴一鉢とビールを出したれば右の男は左も滿足さうに酌婦を相手にビール二本を平げたるに酒には餘程弱虫と見へ忽ち酩酊し呂律も廻らぬ舌にて何かグチャ〳〵と喋べり居りし迄はよかりしがいざ勘定と云ふ段に至りて一文も持合せなければ如何に懷を探ぐれど無い錢の出よう筈なく無いものは矢張り無いに極てるからサアと云つたばかりに何時迄も支拂はず日を白ろ黑し居りしが何と考へたか前にありたる丼に小便を垂れ込みたるのみならず亂暴を働き手も付けられぬ有樣に同亭にても持て餘し此旨會洞派出所に訴へ出でたれば詰合の巡査直ちに出張取調べたるに右の次第なれば懇々其不心得を諭せしに右の男は我輩は民團役所の衛生係だ巡査なんどの干涉に及ばず酒肴料の如き支拂ふべき理由なしと却て巡査に喰つて掛りたれば已を得ず一應南部警察署に連行れたる上懇々說諭を加へ酒肴料一圓五十錢を支拂はしめたる上放還されたるは山口縣平民太平町居住民團役所傭飯田某(三十)と云ふ男なりし

●天氣豫報(自廿一日午後六時 至廿二日午後六時)

南又は西の風雨後曇

二十一日午前六時各地氣象概況

南又は東の風吹き北部は雨天仁川は風力强く其他は一般に曇天なり

西の宮お樂の述懐(三五)

◎御客と大喧嘩

流行といふのもチト可笑しふムいますが其頃藝妓で不見轉をやらないものは幅が利かず大層仲間の風儀が亂れて參りましたので斯なつちやア仙臺も腐りで到底も私共などが長く稼業をして居る所で無く夫れに御贔負になつた立派な方々が大抵他國へ御轉任になつて仕舞ひお座敷へ出ても何と無く面白味が薄らいで參りましたから此りやア一日も早く足を洗ふ事だと考へて居た矢先に持つて往つて或晩お客にイヤといふ程毒づかれたのが無暗と癪にさはり其方と大喧嘩をしたあげく〱トウ〱廢業をする事になりました

相手のお客樣は軍人さんで餘り宜い所をお勤めの方ぢやア無かつたのでムいますが上の方の方々がお出にならなくなつてからといふものは遊びの場所では古顔だといふ御量見で切つて廻し我儘、度を越した我儘をなさるのを私は平常から面白くなく思つて居たので……此日も大勢さんの前に「オイてらく脈に姐さん振つてるぢヤアないか貴樣だつて陰に廻りやアオーライ主義の先達だらう如何だ今夜は其オーライ主義を實行して吾輩と共に何處へ往んか」などゝおつしやるのでムいます勿論御酒のお座敷ですから此れ位の事はお客として普通の言ひ草で何も突ッ掛つて往かなくつても宜いのでムいますが其處が夫れ平常「脈な方だ」といふ氣が頭腦にありますから「ハイ如何も御親切は有り難うムいますがマア〱貴下となら御免を蒙りませう……僅なお金に咽喉を鳴し嬉しがつてころげるお中間とは少ッとばかり違つて居りますからテ」と負けぬ氣を出すと「ヤア此奴失敬な事を言ふ……そんな事で客を取扱ふ藝妓稼業が勤まると思つとるか馬鹿め……」といつて其お客は大變な怒り方然し私も此れ位で引つ込む樣な弱虫ではムいませんから「お氣にさわつたんならおゆるしを蒙ります……」然し世の中は廣いもので貴下の樣な方ばかりは無いと見ね只今までも無事にお座敷を勤めて參つて居りますから其御心配には及びませんのさ……」と言ひ返すと「何ッ……」と言ふ間も無く側にあつたビールの瓶を取り私を見掛けてなげつけました先樣が醉つて居たので手元が狂ひ其瓶は私を除けて座敷の中にころげ出し幸ひ怪我は致しませんが斯なつては私が默然つて居ず「何をなさるのです部下の兵隊さんをおいじめなさるのとは譯が違ひますよ……」と座り直る「生意氣な事をいふナ……ウヌ」といつて今度は前にあつた杯洗を取り其水をザブリとばかり私にあびせ掛けましたから堪りませんスッカリ濡れ鼠となつて雫は瀧を流す樣に落ち散り其こぼれが四邊一面の疊をひたして其狼籍さといふものはありません(續)

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西署西小門通 京城新聞社 電話六六三番